

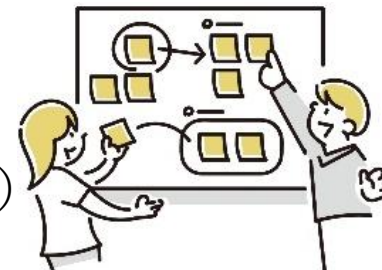


令和5年度 中之条町
未来戦略ミーティング

2024年3月21日

職業実践事業の開催

(名称案:「生業教わり隊」「なかんjob」「中之条郷土職業体験事業」)



提案

- 中之条町の特色ある産業（担い手不足が危惧される伝統工芸など）に触れる機会をつくり、町内外年齢問わず中之条町に興味を持ってもらう。

<内容>

学生や大人それぞれでコースを分け、各々が利益を享受できる仕組み。

- * 短期コース…小中学生（地域の勉強） ⇒ お金をもらうまでの過程を知ってもらう。
- * 中期コース…高校生・大学生（地域創生） ⇒ 商品の作成や販売までを実践する場に活用してもらう。
⇒ 事業主体としての役割を担ってもらう。（企画の発案・SNS発信等）
- * 長期コース…大人（転職・起業・移住定住の足掛かり） ⇒ 一貫して産業体験、実践をしてもらう。

- 伝統工芸品や特産品など貴重な技術・知識を有した高齢者の起用で後継者問題解決の一助とし持続可能な町づくりに繋げると共に、本事業が新たな収入として機能することで「やりがい」創出にも助力し、産業全体の活性化に繋げる。
- 地域通貨などの報酬を配ることにより、学術機関で行う既存の職場体験と差別化を図る。実際に職に就いた感覚を味わってもらうとともに、報酬による「やりがい」の創出。
- 各関係機関（シルバー人材、学術機関、事業者等）との連携や後継者育成など行政が窓口となり、呼びかけや、実践・体験できる仕事の募集を行う。



四季をテーマにしたイベントの開催

提案

- 旅人と住民が交流できる環境を作り、中之条町の四季を堪能するとともに、様々な場（六合地区含む町内全域）でイベントを開催することにより、魅力の再発見や何度も中之条に来てもらえる仕組みを作り、旅人の移住定住につなげる。

→ 駅南河川敷の桜並木など、観光資源として高いポテンシャルを秘めたスポットが手つかずの状態であり、町内外で四季折々の中之条町の良さを知らない人が多い。

< 内容 >

四季4回に分けてイベントを行い何度でも中之条に来てもらう。

春：駅南河川敷の桜並木でイベント

⇒ 駅南河川敷の桜は美しく、吹奏楽や軽音楽の発表の場としても有効。

夏：竹の伐採→竹灯籠づくりのイベント

⇒ 環境の保全と共に、田舎の思い出として残る貴重な体験。

秋：六合・四万の紅葉を堪能するイベント

⇒ 広大な中之条町を知ると共に、自然の豊かさに興味を持ってもらう。

冬：鳥追い祭り体験イベント

⇒ 一緒に参加することで地域との距離が縮まることを期待。

- イベント参加にミッションを設けポイントを集めることで地域通貨や温泉チケットなど、最終的に利益を享受できる仕組みをつくる。

→ ミッションとして耕作放棄地の草刈りや、竹の伐採を合わせることで環境保全にも繋がる。

- 既存団体や資源の有効活用をすることで、事業費を抑えると共に地域の活性化に繋げる。

→ 学術機関と連携し、授業の一環や成果物の発表の場として活用。

ドッグラン等を整備し、飼い主・ペットともに楽しめる環境づくり。

→ 地域の伝統行事にも参加してもらうことで人手不足の解消にも助力。



中之条ガーデنزをもっと活用したい！

提案



- ワークショップをはじめ、はたちを祝う会(成人式)、婚活パーティー、仮面舞踏会など、ガーデنزを活用したイベントの開催。
- 子どもを対象とした花づくり、農業体験など。
- 町内企業がスポンサーとなって、卒業式や節目の時に花のプレゼントなど。
- 家族写真を撮る、子供の成長とともにしたい。
- 食香バラの苗は日本でも少なく、町内業者が販売の権利を唯一持っているため活用したい。
- ガーデنزにコミュニティセンター的な施設を設置してほしい。

⇒赤字施設となっているので、少しでも集客に取り組むべき。

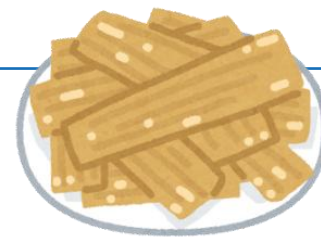
客単価を上げることや、温泉客を引き込む流れを作りたい。

食香バラは日本でも珍しく、販売の権利を町内業者がもっているなので、ぜひご協力いただき、活用したい。

「ガーデنزが町民の大切な場所になってほしいため。」

中之条町の特産品を発信したい！

提案



- 美味しいメンマを作っている方がいるので、作り方を教わり、町の特産品として売り出す。
 - 町の郷土料理を守り、発信する。「つまっこ(すいとん)」や「油みそ」など、私たちには当たり前の料理を再発信していく。
 - バラの加工品（ジャムやシロップなど）ができれば、町独自のものになる。
 - ビエンナーレの作家さんがデザインしたものをパッケージ化したお菓子を作って販売してみてもどうか。
- ⇒ ・フードラボの活用もできるし、メンマについては竹林対策にもつながる。メンマに限らず、イノシシやシカ肉などのジビエをシリーズ化できれば面白いのではないかな。
- ・郷土料理について、私たちにとっては当たり前だが、町外者から見れば中之条町の特産品であるため。
 - ・クックパッドの行政アカウントを活用してみても面白いのではないかな。
- 併せて、開発や販売ができる組織を作れば発信までスムーズにできる。

中之条町ではできない体験・交流会の開催

提案

- 大学教授や起業した人の話を聞く、姉妹都市との交流等、町ではできないことの体験・交流会を開催する。

⇒ 職業を選択する際に、普段過ごしている環境から職業を決めることが多いため、選択肢を増やせるような機会を設けてもらいたい。
小学生から参加できるような場を作る。

ex.) 星空を見ながら宇宙の話。
大網白里市の漁師さんからの海の話、生物の話など。



子どもの居場所づくり

提案

■ 農業体験や花づくり、子ども食堂等の居場所づくり。

■ ガーデنزにコミュニティセンター的な施設を設置。

- ⇒ ・ 「自給自足をしている人の話が聞ける」、「自然の中での遊びができる」、「花や野菜作りなどの農業体験ができる」など、親子で気軽に参加できる場所がほしい。山里テーマパークが近い存在でもあるので、活用・充実させてほしい。
- ・ 行政だけでなく様々な分野の方がアイディアを出し合い、子どもが安心して過ごせる、こども食堂等の居場所づくりをしてもらいたい。
 - ・ 学童保育の支援員が不足しているため、ガーデنزの作業員さんなどに見守ってもらえる仕組みを作れば良い。



草刈り等マッチング事業

提案

- 草刈り等管理がされずに、土地が荒れている場所がある。
しかし、「草刈りをしてほしいが高齢でできない」、「遠方に住んでいて管理が難しい」、また「草刈りをやってもいいが誰が必要としているかわからない」等の問題がある。
そこでマッチングアプリを作成し、草刈りをやって欲しい人と、やってあげようという人を繋げていく。

<内容>

依頼者はアプリに必要事項を登録し、作業者は仕事内容等確認しお互いの希望に沿う場合にマッチング成立。

- 町道など行政が所有している土地等の委託もおこない、インセンティブを地域通貨にすることで地域内での消費を促進し、地域経済の活性化につなげる。
- 草刈りをやってくれる人を対象に草刈り機の使い方、メンテナンス等の講習会を定期的に行い、機械を正しく取り扱うための必要な知識や技術を学べる場を設ける。
- 使っていく人が増えてきたら草刈りに限定せず事業を拡大していく。
(藪の管理、蜂の巣駆除、害獣駆除等)



情報配信アプリを活用した町民一体のまちづくり

提案

- 中之条町で魅力的なイベントや事業をおこなっていても、町民に広く知れ渡っていないものがある。中之条町をもっとよく知ってもらうため、『**情報配信アプリ**』を作成し、情報を広く周知するとともに、行政からの配信だけでなく、町民からの情報も取り入れ配信し、町民と一体となって中之条町を盛り上げられるようにする。

< 内容 >

行政からの情報配信方法

- ① イベントや観光、防災、子育て関係等行政でおこなっている情報の配信。
- ② 町民から道路整備の要望等困りごとの受付をアプリ内でおこなう。

町民からの情報の吸い上げ方

SNSなどで中之条町に関する情報を行政でピックアップし掲載する。
(イベント情報や隠れた名所や新たに開店したお店の情報、町の人々の様子など)

- 町で運営するのが難しい場合、NPOを設立し、情報発信アプリ及びSNSの運営を委託し、町から補助金を出すなど援助を行う。



駅前＋商店街の空き家を活用した コミュニティースペースをつくりたい

提案

- 町民が普段は使いつつ、観光客も立ち寄れる場所に。
- お土産が買えたり、地のものが食べられたり、地酒が飲めたりできる。
→凝りすぎたりしないで、中之条町の素が体験できる。
例) 中之条の野菜、つけもの、お米など「お母さん食堂」的なイメージで
町民向けでは、お惣菜が買えたり、高校生も集まれるようにする。
- 絶メシの再現、継承（地元の人思い出の味）
- コンセプトや空気感を合わせるためにも横のつながりの強化が必要。
最終的には、駅前全体で、コミュニティースペース的な役割を担えるように。



通年、ビエンナーレを感じられるスペースをつくりたい

提案

- 町の特色として、ビエンナーレがあるが、開催時期以外にも上手く活用したい。
→観光客が乗り換えの時間を過ごす場所やお金を落とす場所が駅前にない問題と組み合わせて、展示やお土産を買えるようにする。
- ギャラリーやアトリエなどがあれば、アート体験ができるようにする。(小さなアートをお土産(記念)として作るなど)
- 町民としては、アートを学べたり、ビエンナーレ作家さんとの交流の場としても活用する。

NAKANOJO
BIENNALE 

イベントから始める駅前活性化プロジェクト

提案

- 町民主体でイベントを実施する。(スモールスタート)
- 既存のイベントに相乗りする
⇒伊参映画祭、ビエンナーレ、りんご祭り、産業文化祭、まち5など
- 町の駐車場を活用したキッチンカーイベントをする
⇒中学生、高校生が主体で、イベントやる。
春夏秋冬、2か月に一度など定期開催

